



梅干しをほぐす人、炊いたご飯を握る人、のりを巻く人……と20人が役割分担。中には一生懸命おにぎりを握る小学生の姿もあった。

被災地の状況に 組合員も立ち上がった！ ～組合員ボランティア「おにぎり隊」

「もっと固く握ってくださいーい。
崩れてしまいまーす」

今回の震災では、組合員たちも支援活動に取り組んでいる。その一つが、3月16日から18日までの3日間、こ〜ぶ委員と組合員たちが行なった「おにぎり隊」の取り組みだ。これは、1日に3,000個のおにぎりを作って被災地へ届けるボランティア活動である。



3月18日は、支援にかけつけた大阪いずみ市民生協とわかやま市民生協の職員に、「おにぎり隊」が特大おにぎりを手渡して見送るひと幕も。

3月18日午前9時、いわて生協・本部(滝沢村)の休憩室に集まったのはこ〜ぶ委員と組合員、そのお子さんたち約20人。梅干しをほぐして、炊いたご飯を握る。のりを巻き、ラップでくるむ。最後は数を数えて段ボールに詰めるなどの手順を、分担して流れ作業で行なった。それでも3,000個のおにぎりを作るには、約3時間かかる。

「被災地で食べ物に困っている人がいる、何かできないかという声が組合員さんから上がって始まりました」と、いわて生協・組合員活動支援チームの山崎宏美やまざきひろみさんは活動のきっかけを語る。初日は、こ〜ぶ委員12で行なったが、その模様がNHKで放送されると、「私もやりたい」と一般の組合員からも参加希望があり、2日目、3日目は20人に増えた。

「5分間で150個もできたよ!」

「えーっ、すごーい」

初日は150個を作るのに30分かかっていたのに、3日目にはわずか5分に短縮した。流れ作業の最後、おにぎりを数えて管理していた中2の中島朗なかしまあきひさ君の声に歓声上がる。

3時間続けるのは重労働だが、こ〜ぶ委員の関晴恵せきはるえさんは、

「おむすびを作り終えた後は、腕が痛くなるほどです。でも、友人にこの活動のことを教えたら、『両親が沿岸部にいるので本当にうれしい』とメールをもらって、私も本当にうれしくなりました」と言う。

作ったおにぎりは、初日は宮古市、釜石市、大船渡市に、2日目は釜石市、大船渡市、陸前高田市に、3日目は大船渡市、釜石市、大槌町の避難所へ共同購入の配送車で届けられた。